

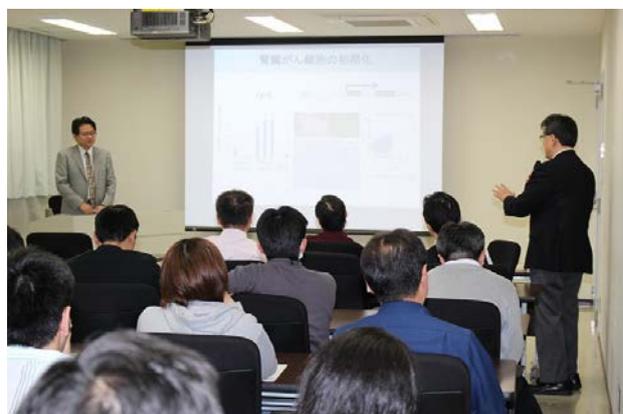
## 「がん進展制御研究所セミナー」を開催

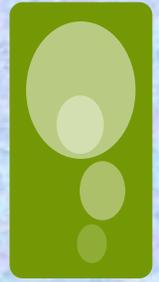
2014年4月22日

4月22日（火）にがん進展制御研究所棟4階会議室において、京都大学iPS細胞研究所初期化機構研究部門／物質細胞統合システム拠点 教授 山田泰広先生を迎え、「iPS細胞作成技術を用いたがん研究」と題して、がん進展制御研究所セミナーを開催しました。

セミナーでは、iPS研究技術を用いた最新のがん研究成果について講演して頂きました。とくに、初期化因子の一過性発現により、初期化を不完全に進めた時に、エピジェネティック変異によって細胞ががん化する機構など、大変興味深い内容を紹介して頂き、「がんは遺伝子の病気」という概念とは異なる、がんの考え方について学ぶ機会となりました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら60名が参加し、とても活発な質疑応答や意見交換が行われ、大変盛況なうちに終了しました。





## iPS細胞作成技術を用いたがん研究

講演者

京都大学iPS細胞研究所

初期化機構研究部門/物質細胞統合システム拠点

教授 山田 泰広 先生

日時：平成26年4月22日(火) 16:30～17:30

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室

山田先生は、MITのRudolf Jaenisch研究室にて、細胞のリプログラミングやエピジェネティクスの研究をされ、2009年からは京都大学iPS細胞研究所にて、iPS細胞研究の視点からユニークながん研究を展開されています。特にiPS細胞の初期化因子を一過性に発現するマウスモデルを作製し、発がんにおける細胞分化とエピゲノム制御の重要性を明らかにしました (Ohnishi *et al*, *Cell* 156: 663, 2014)。

セミナーでは、iPS技術を用いたがん研究について、最新の成果を中心に講演して頂きます。皆様、奮ってご参加下さい。